

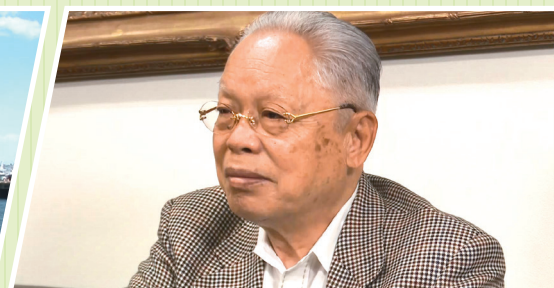
国際理解・国際貢献を考える ～台湾との絆～



企画意図

2011年に東日本大震災が起きた後、台湾からは総額250億円を超える義援金が集まりました。震災直後、台湾の人たちは被災地に直接赴き、数多くの支援を行ってくれたのです。その背景には、1999年に台湾で起きた大地震で、他国に先んじて救助・支援を行った日本への感謝の思いがありました。新型コロナウイルスへの対策でも、日本と台湾は協力を強めるなど「まさかの時の友こそ真の友」と呼ぶべき関係を築いています。

本作品では、このような日本と台湾の「絆」を当時の映像や関係者のインタビューを交えて紹介し、現在も続く青少年たちの交流の様子も伝えていきます。国や地域を超えた「心」のつながりをもつために私たちに何ができるのか、考えるきっかけとなる映像教材です。



● 上映時間 約14分 [C#0718]

● DVD 本体価格 70,000円 (税込 77,000円)

字幕版付き



道徳の授業における指導内容

●主として集団や社会との関わりに関すること 国際理解, 国際貢献

2020年4月、新型コロナウイルスの感染拡大が続き、日本全国でマスク不足が深刻化する中、台湾政府は200万枚ものマスクを日本に提供しました。2011年3月に発生した東日本大震災の後も、台湾からの支援がありました。震災から5日後、台湾に本部を置く団体、慈濟（ツーチー）は被災地に赴き、炊き出しや物資支援を行ったのです。台湾から来日しボランティアに参加した謝景貴さんは、この活動を通して、決して忘れることのできない被災者とのふれあいを経験したと語ります。慈濟（ツーチー）は被災者の方々にお見舞金の配布も行いました。気仙沼市在住の吉田瞳さんは、被災して不安な思いの中、台湾の人々のあたたかい支援に支えられたと感謝の思いを語ります。

震災後の復旧・復興にも台湾からの支援は継続されました。多くの被災地で、公的な建物の復旧に台湾からの義援金が使用されています。このような日本の支援のために台湾から集まった義援金の総額は250億円を超えたといわれています。なぜ台湾の人々は日本を支援してくれたのか。全日本台湾連合会の趙中正会長に、当時の台湾の人々の気持ちや行動を語っていただきました。

日本が大変な時に、手を差し伸べてくれた台湾の人々。その行動の背景には、日本への感謝の思いがありました。1999年9月21日、台湾中部を中心に発生した台湾大地震。大きな被害を出したこの地震に、いち早く救助隊を派遣したのは日本でした。当時の様子を趙さんが語ります。誠意が込められた日本による台湾への支援。東日本大震災での多大な支援は、その恩返しをしたい台湾の人々の気持ちの表れだったのです。

東日本大震災での支援をきっかけに、宮城県南三陸町では台湾の若者を招き、地元の高校生とのふれあいの時間を作ったり、地元の住民にホストファミリーになってもらうなど、交流を深めています。そのねらいは、お互いが助け合ってきた歴史を若い世代に伝え続けていくことです。映像で紹介した日本と台湾の関わりを通して、国際社会で互いに助け合うことの大切さについて考え話し合い、一歩を踏み出してみましょう。



監修 麗澤大学大学院 学校教育研究科 道徳教育専攻 教授 鈴木明雄

プロデューサー 光田雅樹
中島恭

協力 台北駐日経済文化代表処
全日本台湾連合会

監督 西山諭

台湾佛教慈濟慈善事業基金會
一般社団法人南三陸町観光協会

制作協力

株式会社千代田ラフト

企画・製作

東映株式会社 教育映像部



予告編はこちら

令和5年(2023年)作品

- 本DVDは、ご購入いただいた官公庁（都道府県市区町村・視聴覚ライブラリー・教育委員会・警察・消防等）や事業所等での貸出し、非営利上映を行うことを前提とした商品です。著作権処理を行うことなく、上映会や研修会等でご使用になれます。
- 本DVDについて次の行為に該当する場合は、使用の可否や別途料金等について、必ず当社までご相談ください。
・テレビでの放映 ・ビデオオンデマンド等による配信
- 著作権者に無断で、作品の一部または全部を複製・改変・放送・有料上映・配信することは、著作権法違反となり処罰の対象になる場合があります。
- DVDビデオは映像と音声を高密度に記録したディスクです。DVDビデオ対応のプレーヤーで再生してください。パソコンなど一部の機種で再生できない場合があります。